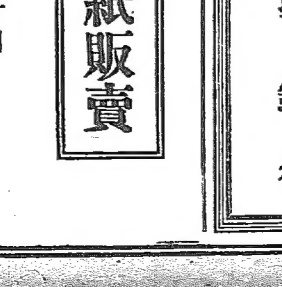


刊 夕 日 元

厚二金行
（五五八番）
商業銀行

銀 行	銀 行	銀 行	銀 行
城 (一番)	城 (一番)	城 (一番)	城 (一番)
長一八九五番	長一八九五番	長一八九五番	長一八九五番



紙
株式會社

城支店

1850

才

GGG

GGGGGGGGGG

株式会社
GGG

[illegible]

厚二金行
商業銀行
(五五八番)

銀 行	銀 行	銀 行	銀 行
城 (一番)	城 (一番)	城 (一番)	城 (一番)
長一八九五番	長一八九五番	長一八九五番	長一八九五番

紙販賣

紙式株會社

城支店

其

ル
大日本麦

GGGGGGGGGG

合式標

GGG

社

止すべき任務を持つて三月十日朝龍山附近に陣地を占め其の砲想主力を以て師團司令部の西方、都の高地に據り其の右翼隊を以て騎兵營北方の作戦山を占領し騎兵小隊を其の右翼に置き世の方面の警戒に當らしめて居り既に樞兵庫附近に於て鐵砲隊のす職團を交ゆる部隊は此の防禦軍の右翼部隊と攻撃軍の左翼隊と騎兵營北方作戦山を據守する防禦軍の右翼隊は朝野歩兵二中隊、機關銃一小隊、野砲兵一小隊を以て成り、攻撃隊は朝野歩兵二中隊、機關銃一小隊、野砲兵一小隊を以て成り、騎兵營、砲兵營附近に氏之れが指揮をとり午後に之を據守する頃より、攻撃隊は右翼隊に展開したる攻撃隊の左翼隊、防禦陣地より敵隊の陣地に移り、離進又離進、突撃に移り東軍の右翼陣地を奪略する筈であるが突撃は午後一時二十分前後なるべく觀察者は三坂連の皇丘附近に於て最も好位にであらう、十日午後陣地攻勢演習が終ると直ちに軍樂隊の奏樂に伴れ、しきしき諸隊隊物もあり猶同時に勇壯なる部隊、銃、野、抵抗、合等、の備がある者である

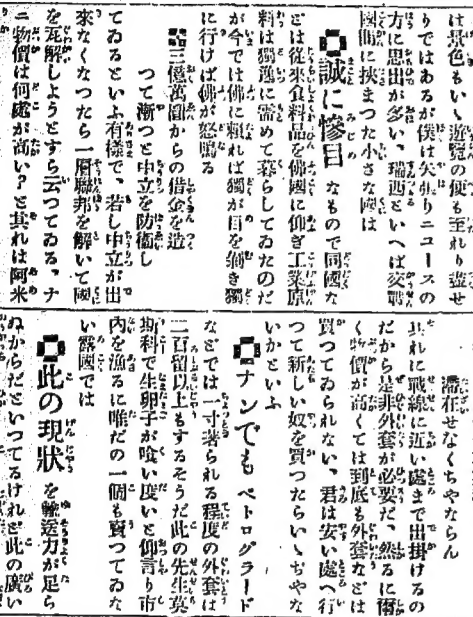
十日の陸軍記念日には秋山軍官が龍山崔俊相公の名を以て
 對内閣の管轄の終りたるを授けし續々兵に陣訓を改訂せし
 對抗武備の整へたるを授け來賓は直ちに陣訓改訂の式場に入
 式の座席は櫛行を以て開式の合圖とし秋山大將の記念式開式の
 挨拶、君が代表樂に次で天皇陛下の御歳三十一文食の饗宴ある
 筈で同日招待せられたる將校同相當官は通常禮装其他は相當官
 禮装を爲るやうにこのことである

餘興奏樂博多仁輪加兵士の相撲

裝飾せられたる舞臺にて奏樂、博多仁術加等があり庭上では鼓
の土俵四本柱で軍隊相撲もあり同時に隣近會館掘店等が開始
される事に成つて居る

●午後一時からは聯隊兵舎開放
十日午後一時から五時迄歩兵第七十八聯隊では營内を開放し現

▽奉天北陵——乃本軍の近間攻撃目標たりし



行各種兵科の被服、各種兵器、陣中
に要する各種の攻防用具材料等を
陳列し説明書を附して内覧を問は
ず一般公衆の縦覧を許す事に成つて
居る猶軍隊の内務生活を公開觀覽せ
しめて一般の軍隊に對する智識の涵
養を目的とし第二第六第九の各中
隊を開放し兵士の常任起居の状況を
觀覽させる筈であるが龍山の兵營を
開放するのはこれを以て嚆矢とする

**●酒保を觀覽者の
ために公開する**

十日午後一時から其内観覽者の
陸軍にては將校集會所を一庭の休
憩室に充て又酒保を開放して當日に
派遣される

一般公衆に軍人と同様に煙草、酒、
パン等を販賣する事に成つて居るか
ら當日は誰でも營内を觀覽し酒保を
ら酒其他の間食物を買ふ事が能がる

**●小學校生徒七千
名の參列**

十日練兵場の陣地攻防演習及び各種
の演武觀戰の爲め龍城町内の各學校
から約七千名が生徒が參列する事に
成つて居るが秋山軍司令官は之等參
觀の學生に對し其れ々菓子や零料
頒配する筈である猶當日は諸學校
の希望により並事請願の爲め各校を
派遣される

一其川第三總司令部警備隊第一子團
第二中隊八島兵隊四ケ日のり岡政彦、岡政
喜原盛國大佐、小中正雄、小川竹太郎、沼井

一夜の室代が二十八留

丁柿は畜産の盛な處だが、乳牛牛乳業は最も發達し、國內到處に牛乳組合があつてお互に連絡を保ち、ドン／＼外へ出してゐるのを、鐵道沿線などは各驛共に牛乳の罐が山を造つてゐる。

土の歩いた處で一等しい。

土地だと思つたのは佛國の南方に當るニュースだつた。モナゴやモンテカルロなども見たが、此の邊は馬鹿に氣候が能くニュースに行つたのは十二月の中旬だつたけれど、息暗き夜咲いて全く。

常春の國であつた。瑞西

眼の玉の飛び出やうに物價の高い露西亞。

露西亞に及ぶ國は無い。

ペテログラードでは第二流のホテルに泊つただけけれども、一夜の間代に二十八留をせしめられ、翌夜にオムレツ一皿を買つて三留半を引かむだらう。

れたのは轉倒した僕は。

レペリア線で面白く露人

と乗り合はせ莫斯科なども同人の客内で見物したが、此の先生僕が薄つぺらな外套を持つてゐるのを見て、頻りに賣つて呉れ、と哀斯する所だ。

をを如何するかと聞く。

自分は未だ莫斯科にも

は景色もいゝ遊覧の便も至れり遊せりではあるが僕は矢張りニユースの方に思出が多い、瑞西といへば交戦國間に挟まれた小さな國は

○誠に慘目 なるもので同國などは從來食料品を佛國に仰ぎ工業原料は獨逸に密めて暮らしてゐたのが今では佛に頼れば鋼が目を締き獨に行けば餅が怒れる

○三億萬圓からの借金を造つて漸つて中立を防御してゐるといふ有様で、若し中立が出来なくなつたら一層聯邦を解いて國を瓦解しようとする云つてゐる、ナニ物價は何處が高い？と其れは阿米

濃布せなくちやならん其れに職場に近い處まで出掛けるのだから、非外套が必要だ、然るに爾く物價が高くては到底も外套などは買つてゐられない、君は安い處へ行つて新しい奴を買つたらいゝぢやないかといふ

○ナンでも、ベトログラードなどは一寸著れる程度の外套は二百留以上もするそうだが此の先生英抑科で生卵子が喰ひ度いと仰言り市内を流るに唯だの一冊も買つてゐない露國では

○此の現状を戦遂力が足らぬからだといつてるけれど此の度い

抵抗遊人で露人は其の消費者だつ
の

新聞紙に「近來非常な注目を拂つてゐる、協商國側を實めた、聯合國側を貶す扱ひのことは勿論、金が續けば日本に金が儘から

に採りしと様なることを云つたり、
いたしするところは

○聯合國側 にと取つては絶對に禁がある。英國側では本邦某會社の船員が某會社に近調に口を二にした爲め遂に居たしまらぬ様になつた事である。之れは單に聯合國の威嚇を恐るのみでは済まない

○在住那人 に對して亦た非難の聲を發すべきさうだ。身分の上、地位の如何に拘らず、歐洲に遊む日本の旅客は此の點に就いては種々態度が必要であると共に新聞紙にたゞ其の注意を拂はなければならぬ。

●病を苦にして自殺
 京畿道加平郡下南嶺上里劉深妻吳氏は一日午後二時頃自宅湯突内(風呂)に浴し、湯突内に湯を注ぎ、湯を飲用して自殺を企てりとの急報に接し、京城分隊驛里派所より憲兵出張檢視せしが家人應召手常を叫へしも同日午後三時過ぎても原國は病氣を苦にしたるものなりと

級分發南平川派遣所より憲兵出張
 祝の上屍體を家人へ引渡せり
 讀者文藝(の書箱は五十丁)
 ▲箱め書
 鏡(等)
 草城 倉地 腹川
 番外佳作
 ▲龍岩謝武良とみ子
 ▲仁川小柳留吉
 ▲京城池田末弘
 ▲京城鹿野亭

[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]

祝陸軍記念日
京城黃金町二丁目
日清生命保險株式會社
朝鮮出張所
電話長一四九六番

京城黃金町二丁目
太平生命保險
株式會社
京城支部
電話長一四〇二番

東區龜町區有榮町一丁目四
明治公債株式會社
電話東京二八一九番
電話東京八七九番
株式會社林廣澤
東京清水區一丁目
明治公債朝鮮支部
電話一九〇八番
電話東京二五〇八番
保本森之處

祝陸軍記念日
京城黃金町三丁目
東京株式會社
建物業社
京城支店
電話 一六八一番
一三八一番

祝陸軍記念日
內外果實青物卸專業

祝陸軍記念日

石炭商 西崎商會

京城西小門町
電話七二七番

周松原商店

委託 京城南大通り三丁目
電話一八三番
振替口座 京城一八三番

第八十一席 田邊南龍口演

A black and white illustration of a man in a dark, patterned robe and a head covering, kneeling on a wooden floor. He is holding a long, thin object, possibly a sword or a staff, in his right hand. The background shows a wooden wall and a window.

[illegible]

先に着いて待受けて居ります。此方には荒川を渡り、平太夫を討つて其の怨みを晴し、是より、此處の城下へ出やうと云ふの一門弟の意を得て、若國の城下を距れて忽々此處へ来ました。鑑川の邊、女將は足を止めて、著「コレ邊乎。此處は名代の鑑川である。此處まで參ればもう大丈夫な心をしたして休息いたせ。何にしろ、猶急歸しをいたして決い心遣に春が来た。」
木村屋（平太夫）
お菓千たもに野へ山へ

三月十一日九星
君二月十八日壬子
革命一月廿納先勝

修業中 革命一月廿納先勝
●一、修業中 革命一月廿納先勝
●二、修業中 革命一月廿納先勝
●三、修業中 革命一月廿納先勝
●四、修業中 革命一月廿納先勝
●五、修業中 革命一月廿納先勝
●六、修業中 革命一月廿納先勝
●七、修業中 革命一月廿納先勝
●八、修業中 革命一月廿納先勝
●九、修業中 革命一月廿納先勝
●十、修業中 革命一月廿納先勝
●十一、修業中 革命一月廿納先勝
●十二、修業中 革命一月廿納先勝
●十三、修業中 革命一月廿納先勝
●十四、修業中 革命一月廿納先勝
●十五、修業中 革命一月廿納先勝
●十六、修業中 革命一月廿納先勝
●十七、修業中 革命一月廿納先勝
●十八、修業中 革命一月廿納先勝
●十九、修業中 革命一月廿納先勝
●二十、修業中 革命一月廿納先勝
●二十一、修業中 革命一月廿納先勝
●二十二、修業中 革命一月廿納先勝
●二十三、修業中 革命一月廿納先勝
●二十四、修業中 革命一月廿納先勝
●二十五、修業中 革命一月廿納先勝
●二十六、修業中 革命一月廿納先勝
●二十七、修業中 革命一月廿納先勝
●二十八、修業中 革命一月廿納先勝
●二十九、修業中 革命一月廿納先勝
●三十、修業中 革命一月廿納先勝
●三十一、修業中 革命一月廿納先勝
●三十二、修業中 革命一月廿納先勝
●三十三、修業中 革命一月廿納先勝
●三十四、修業中 革命一月廿納先勝
●三十五、修業中 革命一月廿納先勝
●三十六、修業中 革命一月廿納先勝
●三十七、修業中 革命一月廿納先勝
●三十八、修業中 革命一月廿納先勝
●三十九、修業中 革命一月廿納先勝
●四十、修業中 革命一月廿納先勝
●四十一、修業中 革命一月廿納先勝
●四十二、修業中 革命一月廿納先勝
●四十三、修業中 革命一月廿納先勝
●四十四、修業中 革命一月廿納先勝
●四十五、修業中 革命一月廿納先勝
●四十六、修業中 革命一月廿納先勝
●四十七、修業中 革命一月廿納先勝
●四十八、修業中 革命一月廿納先勝
●四十九、修業中 革命一月廿納先勝
●五十、修業中 革命一月廿納先勝
●五十一、修業中 革命一月廿納先勝
●五十二、修業中 革命一月廿納先勝
●五十三、修業中 革命一月廿納先勝
●五十四、修業中 革命一月廿納先勝
●五十五、修業中 革命一月廿納先勝
●五十六、修業中 革命一月廿納先勝
●五十七、修業中 革命一月廿納先勝
●五十八、修業中 革命一月廿納先勝
●五十九、修業中 革命一月廿納先勝
●六十、修業中 革命一月廿納先勝
●六十一、修業中 革命一月廿納先勝
●六十二、修業中 革命一月廿納先勝
●六十三、修業中 革命一月廿納先勝
●六十四、修業中 革命一月廿納先勝
●六十五、修業中 革命一月廿納先勝
●六十六、修業中 革命一月廿納先勝
●六十七、修業中 革命一月廿納先勝
●六十八、修業中 革命一月廿納先勝
●六十九、修業中 革命一月廿納先勝
●七十、修業中 革命一月廿納先勝
●七十一、修業中 革命一月廿納先勝
●七十二、修業中 革命一月廿納先勝
●七十三、修業中 革命一月廿納先勝
●七十四、修業中 革命一月廿納先勝
●七十五、修業中 革命一月廿納先勝
●七十六、修業中 革命一月廿納先勝
●七十七、修業中 革命一月廿納先勝
●七十八、修業中 革命一月廿納先勝
●七十九、修業中 革命一月廿納先勝
●八十、修業中 革命一月廿納先勝
●八十一、修業中 革命一月廿納先勝
●八十二、修業中 革命一月廿納先勝
●八十三、修業中 革命一月廿納先勝
●八十四、修業中 革命一月廿納先勝
●八十五、修業中 革命一月廿納先勝
●八十六、修業中 革命一月廿納先勝
●八十七、修業中 革命一月廿納先勝
●八十八、修業中 革命一月廿納先勝
●八十九、修業中 革命一月廿納先勝
●九十、修業中 革命一月廿納先勝
●九十一、修業中 革命一月廿納先勝
●九十二、修業中 革命一月廿納先勝
●九十三、修業中 革命一月廿納先勝
●九十四、修業中 革命一月廿納先勝
●九十五、修業中 革命一月廿納先勝
●九十六、修業中 革命一月廿納先勝
●九十七、修業中 革命一月廿納先勝
●九十八、修業中 革命一月廿納先勝
●九十九、修業中 革命一月廿納先勝
●一百、修業中 革命一月廿納先勝

り誰とぞ、門弟の名は横山逸平、何
處へ參ると申したか、何處ともよ
り棚川へ參るといふことを申して居
りました、前「それにて愛利を判つた
方だ、近くは行くまいから、指者は歸を
京師病 須古醫院
電話二〇三二

日本精製鐵器株式會社朝鮮代理店
櫻井町
電話八七三
大正
新

[illegible][illegible]

男

○ ○ ○ 障書である

だん

浪花

母役 寛政御勘定 朝生仙舟青柳 (廣津和馬)

有樂の娘 寛政御勘定 土師 (廣津和馬)

若衆 寛政御勘定 土師 (廣津和馬)

山苦水 小月山渡記 (八雲)

山苦水 小月山渡記 (八雲)

小勇姉使 (廣津和馬)

明治三六

浪花

女のひみつ
 遺精早漏の
 夢精過漏の
 勃起衰弱の
 陰莖萎縮の
 神經衰弱の
 ヒステリー症の
 手淫過房早起
 思春期に人生

美人
(切手一兩冊)
男女〇〇寫真ルサツ
付縦五寸五分巾四寸
五枚四十錢額八錢
組八十錢密送料八錢
大阪市中之島二白美業

彼れ是と迷ふ無く
 得難く良藥神病
 湯薬上現に百万手
 を動かさず難症の
 血の道、多年不治
 のヒステリー、
 年病の子宮病を始
 め難癒の癩癰リウマ
 テス難癒の方、が
 神病を患服で
 快に治るにス
 ツカリ快癒し難症
 難癒を患服し現
 在に一般の病
 實を患ふ者、
 常に是の病に

神功湯

子宮
血の道
ヒステリー
慢性
胃腸
能く
効を奏す

ぜんき
リウマチス
神經痛
と

神功湯
鎮子

[illegible]

之ヲ連用スルモ毫モ胃腸ヲ害セズ容易ニ吸收セラレ
テ尿中ニ分泌シ尿量ヲ増加シ且殺菌作用偉大ナリ。

ブレリリン

結合セシメタル新化合物ニシテ「バルサム剤ト異リ
急性・慢性・淋病及清潔
膀胱尿道加答兒ニ實用ス
野博士緒方博士櫻根博
士ハ本剤ノ治驗報告ヲ發
表セラレタリ。本剤ハ粉
末及錠劑アリ。

各地有名藥舖ニアリ

說明書進呈ス

町室京東
社會式株共三

消化と

仁丹

花見遊山に

仁丹

御携帯が肝心

金言

至誠は万徳の本
人の道

(密蔵)

滿蒙產業誌

[illegible]

脳病良薬

ベール

同博士を初
め、森田博
島氏等十有
餘名の大家
が有効證明
した。是れ
は本品は最
高質藥廠の
素リヤンを
多量に含有
する無比の
なり故に腦
神経衰弱、
頭痛、眩暈
眼痛、記憶
力減退、不

退等の國病患者は最終の試薬として本劑を服用せし、レベンは容積と體積を管理す服用量極めて少くして効顯極めて大なり

藥價(八十五錢、五十錢、二十錢)

東京總店 中定太郎
東京分店 中定太郎
大阪支店 中定太郎
大田安土町支店 中定太郎
電話三十七番 中定太郎
信用ある藥店に有り無ば直接東京支店に

節單明瞭の十
日
練習其の
新に
通に
信入る
法

りん病

自宅や人知れず安全秘法に治す良
あり只一劑を服上此藥は仙の
良良切手三錢添一日も早く治す
其良藥と自かちや町武藤龜
名古屋市南

哲理治療通散授

告日白に聞

生諸士業

なる辛切

して規則

書を講求

先づ規則

を欲せん

を知るか

のなるか

何なるも

療法が如

向なる本

向なる高

なる職業

得修養と

正し尙他

惡辭を矯

分の疾病

を撲滅し

自分で自

釜淵大町

朝鮮健全哲學館

丁一十三番

池田

因渴

多病

性年

故竹之助儀葬送の際には御多忙中にも不迫道路御曾葬被下難有乍賂儀以紙上御禮申上候
三月八日
父 荒木助太郎
古賀勝二
親戚 時津又兵衛
總代

友代
總代
奧田貞次郎
林洋次郎

奉天會戰の日

マ竹内軍副官夫人の談



「奉天會戰の日」
マ竹内軍副官夫人の談
「奉天會戰の日」
マ竹内軍副官夫人の談
「奉天會戰の日」
マ竹内軍副官夫人の談

ゴルフの遊戯中に

米國大使の病狀に實の君子人

「ゴルフの遊戯中に」
米國大使の病狀に實の君子人
「ゴルフの遊戯中に」
米國大使の病狀に實の君子人

首席は平均九十四點

京城中學入學試験及第者発表

「首席は平均九十四點」
京城中學入學試験及第者発表
「首席は平均九十四點」
京城中學入學試験及第者発表

其處にも此處にも

其の内に及第者百五十三名の姓名が

「其處にも此處にも」
其の内に及第者百五十三名の姓名が
「其處にも此處にも」
其の内に及第者百五十三名の姓名が

鮮人少

年四名

「鮮人少」
年四名
「鮮人少」
年四名

開帳中に踏込

本町署の博徒狩

「開帳中に踏込」
本町署の博徒狩
「開帳中に踏込」
本町署の博徒狩

男と實子を殺

害して自殺す

「男と實子を殺」
害して自殺す
「男と實子を殺」
害して自殺す

航空界の犠牲者

決して左る卑怯な人ではない

「航空界の犠牲者」
決して左る卑怯な人ではない
「航空界の犠牲者」
決して左る卑怯な人ではない

所持金を強奪

江原道伊川

「所持金を強奪」
江原道伊川
「所持金を強奪」
江原道伊川

祝陸軍記念日

一(業負請築建土木)一

祝陸軍記念日
一(業負請築建土木)一

白木秋藤藤久永大大今

坂原山田井保田橋工津

務

組組組組組組組組組組

祝陸軍記念日

三井物産株式會社

祝陸軍記念日
三井物産株式會社

京城貴金町一丁目

電話二六、七二四番、二一九番

祝陸軍記念日

サントリー

京城出張所

鈴本商店

祝陸軍記念日

朝鮮郵船株式會社

祝陸軍記念日

怒濤の月

小林蹴月作 武內桂舟畫

うたかた「十九」の一
「大抵だから大變だよ」と、面白の
人^{ひと}が聆^きれて叫んだ。
「此^この家のお爺^{おや}さんが今^{いま}、蛇頭^{へびがしら}の頂^{いただき}
上^{うへ}から海へ飛んで死んだよ」、年
輩^よらしいのが、五浦^{いつくさ}の方^{かた}を指し、爲^な
がら言^いつた。
「なにヲ、靜^{しずか}さんが蛇頭^{へびがしら}の巖^{いわ}上^{うへ}から
……」
幸三郎^{きんざう}は、うなづ言^いつて、地^ちひた
に坐^まつたが、後^{のち}は口^{くち}を利^きき得^えずに
了^{しま}つたのである。
「なにヲ、俺^{おれ}がお爺^{おや}が海へ飛んだ
と」
家^{いへ}の中^{うち}から連城^{れんじやう}を呼^よんだにかり
よ。可^い成^{なり}さうに可憐^{かわい}なやうな娘^{むすめ}を
此^この家^{いへ}が。泣^ないたとて笑^{わら}つたさて、
もう追^お付^づく術^{かた}はねわねだから、約束^{やくさく}を
ど請^こねたて、早くしやれども着^き握^{にぎ}ぬ
させてやらず、口々に海^{うみ}を述^のべて、
漁師^{いしやう}們^らは、口々に海^{うみ}を述^のべて、
一先^{いっせん}づ立ち歸^{かへ}つたのである。
佛壇^{ぶつだん}の前^{まえ}へ逆^{さか}さ屏風^{びやうぶ}を立て、
その中^{うち}へ横^{よこ}へられたお爺^{おや}の死體^{したい}は、
左^{ひだり}して手^て前^{まへ}に置^おきなかつたもの
見^みえて、宛然^{えんぜん}に昔^{むかし}生きて居^ゐて、
を言^いひやうな格^{かた}を爲^なして居^ゐる。
「お爺^{おや}よ、汝^{なんぢ}を死^しねくれぬばら、如^{ごと}
故^{ごと}に一語^{いちご}來^きても、然^{しか}う言^いつて呉^く
なかつたやうな時^{とき}代^{だい}に、お爺^{おや}に死^し



の死體の上に起いて涙をばら／＼と落した。お節の死體は首肯くやうに見られたのである。つい四五日前までは、眞盛りに芳しい落りを放つて居た老木の樹は、風もないのにち／＼と散つて、魚の鱗のやうに死骸の枕頭まで散り飛んで来るのが、何ごも云へぬ淋しさを幸三郎に感せしめた。幸三郎は、泣いた。我が爲めにも泣いたが、お節の爲めにも亦、涙を流す。涙と哀愁の涙とを混して流いたのであつた。

のてふまゝ
「吾郎君、此の期に及んでは、もう何事も言ひません。本来ならば、のめ／＼と斯うしてお二人の前に居られた義理ではありませんが、今夜のお通夜は、情願僕に爲して下さい。」短かい倣ない夢の生涯を了つた静さんの霊に對する切ても僕の赤心です。」

幸三郎は、思ひ入つて頼んだのであるが、老虔も義郎も、無言に顔を見合つて只涙を張り上げるのみであつた。

春波き夕暮の空氣は、身に沁みて冷かであつた。佛前の燈明は、とはとぼとして、今にも消ねさうに爲ては、又明るくなりつつ、石蠟の如きは、お節の死顔を見白く照らした。

新刊 紀介

▲大學評詁三月號「德意志の中心問題」一欄で、中世に於ける「聖人」の地位を論ずる時、オーストリアの皇帝ルドルフ第二の事蹟を引いて、その「聖人」の地位を論じて居るが、この「聖人」とは、ルドルフ第二のことである。ルドルフ第二は、オーストリアの皇帝であり、また、ドイツの皇帝でもあり、また、ハンガリーの国王でもあり、また、ボヘミアの国王でもあり、また、スロバキアの国王でもあり、また、クロアチアの国王でもあり、また、セルビアの国王でもあり、また、モンテネグロの国王でもあり、また、マケドニアの国王でもあり、また、ブルガリアの国王でもあり、また、ギリシャの国王でもあり、また、トルコの国王でもあり、また、ペルシアの国王でもあり、また、インドの国王でもあり、また、中国の国王でもあり、また、日本列島の国王でもある。ルドルフ第二は、このような多岐にわたる王位を兼ねた唯一の人物である。ルドルフ第二は、このような多岐にわたる王位を兼ねた唯一の人物である。ルドルフ第二は、このような多岐にわたる王位を兼ねた唯一の人物である。

に、轉け出て來た老婆は、その草の上に早腰を抜かして、目を白くして居た。

物の三分之二も終たぬ間に、近所の遊師團五六人が、戸板の上へお節の沙に濡れ浸つた麻襦を纏へて、毛布さへも襦は手に赤土を踏みしめながら昇き込んで來たのであつた。

「お袋、仔細は知らねのだが、飛んだ事になつたもんだの。恰度今朝の風風を計つて、彼の蛇頭の沖合に網を打つてゐるもの、今の先刻の事よ。潮然後の峻しい嵐の頂上から飛び込んだ人間があるだから、誠に船を溺さず寄せて、いゝやうと思ひで、抱き上げる事は抱き上げたもの、お袋も知つての通り、彼の崖下の浪の荒さは、並一通りのこんでねわかし、女的身體ぢや堪りつこねわだ

はやうな事はあるめだと思つて油斷して居たのが、俺が一生の過だ。カッ、可哀さうにの、十九や十で死なさうと思つて、今日まで生きては爲れぬだよ。今朝對座してを食た時、萬一遠い國へでも行くになつたらば………と、餘所うから俺の腹の中を聞いた事を思ふが、彼の時から汝や、もうオツ死んでふ氣で居たもんと見るだの。」

「咽さ返り、咽さ返りつゝ、掻き口を」

老婆の衰へた、又枯病であつた老三郎は、到底此の慘劇を察する氣の中に、腕を組んでは居られななつて來たのである。

「僕、殺したんだ。靜さんは僕がしたんだ。靜さん、どんなにでもを怨んで呉れ給へよ。」

只僅かに是丈の事を言つて、お

京日案内

普通五十錢
雷外
四角五分
四角五分

[illegible]

京城本町三丁目
近藤金物商
電話一五六二番


祝陸軍記念日
京城本町三丁目
日用雜貨
食料品商
下川商店
電話一四七〇番
長四九七番

眼鏡製作

京城大和
十一
祝陸軍記
京城義州通一
朝

町一丁目
大倉組出張所
長電話二〇四
念日
鮮煙草株式會社
電話長一八七番

なる洗金四方 定價
厚鍍子八日巻 十六圓五
目醒付置時計
高サ三寸三分 立二寸七分 横中
蓋等サツクが本
△地方師匠文具代金引替小包便に
可仕從價金三十九圓
△外に美樹金細工品を常備
上級に
京坂本町二丁目
村木時舗
町田
ステツキも 西區四
色々あります 振替京坂三



[illegible][illegible][illegible][illegible]

〇〇〇〇六〇九〇〇
 登 録 商 標
 最 上
 福
 醬 油
 〇〇〇〇六〇九〇〇

部 造 釀 油 醬 屋 島
 番 〇 三 三 番 〇 九 長 話
 番 七 五 城 京 替 振
 町 倉 米 北 岐 京
 部 賣 販 內 市

◎ 漢西漢代衰落の群書集成
◎ 新撰新撰新撰新撰新撰
◎ 詳解漢相大子典
◎ 皇極經世一古小御用
◎ 國語語法 法文省記
◎ 國語語法 法文省記
◎ 漢文小學校行書の研究
◎ 漢文小學校行書の研究
◎ 國語の組織大正正
◎ 國語の組織大正正
◎ 大正六年最近朝鮮事情要
◎ 無我の生 活哲學 石野
◎ 佛蘭西文學史 藤田
◎ 常世白道樂集内親家
◎ 常世白道樂集内親家
◎ 同田新八郎小全井流州
◎ 同田新八郎小全井流州
◎ 近代佛蘭西三勝牛七曲馬の泉
◎ 近代佛蘭西三勝牛七曲馬の泉
◎ 文藝集 沙集 寺野 彌子
◎ 文藝集 沙集 寺野 彌子
◎ 國策要略 戰法 國策 著作
◎ 國策要略 戰法 國策 著作
◎ 國策要略 戰法 國策 著作

[illegible][illegible][illegible]

祝陸軍記念日

京城太平通二丁目

日本醬油株式會社

京城出張所

電話二四五番

祝陸軍記念日

京城本町一丁目（郵便局）

和洋紙販賣
活版石版各印刷

京城本町

祝陸軍記念

電話 三三〇七

[illegible][illegible]

同濟
運送店
出帆
船阪行
午後五時出帆
午後二時出帆
午後二時出帆
午後五時出帆
午後二時出帆

第一學年生級六十名募集
入學出願期日 四月廿六日限リ
入學試験期日 四月廿四日五日
開校日 二月三日官報ヲ見ヨ

仁川公立商業學校

簿記生徒募集

六ヶ月卒業卒業後一銀行會社
等ニ雜質ニ就職照入ノ規則書
要ニ送

京城明治町
商店街

京城簿記專修學校

京城明治町三丁目
京城魚市場
電話一四七八

祝陸軍紀念
京城永樂
清

電話
八長
一二
三五
番

[illegible][illegible]

正午出帆
浦潮不寄港
夜十二時出
出帆
前六時出帆
夜四時出帆
客は本船に乗
るには船票の
料を以て
社店に
預け置く
要す
社店に
預け置く
要す

[illegible]